

[横浜市民ギャラリー]
令和 6 年度業務計画及び収支予算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町 26-1
構造・規模	鉄筋コンクリート 4 階建（地下 1 階～地上 4 階）
敷地・延床面積	敷地面積 2,301.11 m ² 、延床面積 3,428.44 m ²
開館日	平成 26 年 10 月 10 日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町 2 番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者（代表団体）の管理運営開始日	平成 8 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

1964 年の開館以来、日本で最初に「市民ギャラリー」を冠した施設として、市の芸術文化発展の一端を担い親しまれてきた歴史の継承と、未来へ向けた文化芸術政策への貢献を念頭に、第 4 期指定管理期間に課せられた「6 つの使命」の実現に向けた取組を展開します。

「市民のためのギャラリー」であるからこそ可能である、市民の文化活動を支え、次世代育成を重視し、地域と連携しながら「誰もが芸術文化に触れることができる機会」を提供します。

また、市民の貴重な財産である収蔵作品の保管環境の改善と修復等について市と緊密に情報共有を行うとともに、自主事業を通じてその魅力を伝えていきます。

「変わらない安心と変わる勇気」をもって、持続可能な施設運営を目指し、安心・安全で快適な環境づくりに努めます。

(2) 令和6年度の業務の方針

ア 全体について

第4期指定管理期間の中間年(3年目)となる令和6年度は、指定管理業務における6つの使命達成に向け、引き続き多彩な利用者の文化活動発現の場としての貸館事業、「新・今日の作家展」・「横浜市こどもの美術展」・「コレクション展」を中心とした展覧会や幅広い市民を対象とした講座等の自主事業、収蔵作品の保存・修復・活用、及び他施設との連携や若手作家支援等について、培ってきた経験やノウハウを活かした堅実な運営を行います。

また、当年度は開館60周年及び現在地移転10周年を迎える記念年です。単なる祝祭感の創出に留まらず、この事を契機に施設のプレゼンスを高める事を念頭に各事業での演出を心掛けます。

今年度も、引き続き施設維持管理、経年劣化への対応、感染症対策等の施設運営全体に通底する地道な対応を着実に実施します。

財団中期経営計画で掲げられている様々な社会課題解決に貢献する文化施設の在り方を見据え、当館の活動が市民の方々の日常生活において生活に潤いをもたらす活力増進に貢献し、「地域に根差したギャラリー」と認知されるよう努めます。

イ 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する：市民の皆さんに美術を中心とした文化芸術活動を創作、体験、発表する場を提供することで、市民の文化芸術活動を支援し、文化活動人口(文化活動の支援者を含む)の増加に寄与する。

■市民の文化芸術活動を支え、交流を生み、情報発信のターミナルになるギャラリー■

細やかで丁寧な施設の貸出業務を通じて市民の皆さんの文化活動を支えていきます。展覧会を開催する人、鑑賞する人、作品を創る人、作品作りを体験する人、すべての人にとって身近な「晴れの場」であり、「人と人が交流する喜びを生む空間」であるような運営を心掛けていきます。

また、公設・私設を問わず市内に数多く存在する美術施設の活動を集約し発信することにより、その活動を支援し、文化活動に携わる人の増加に寄与します。

ウ 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する：美術を中心とした、芸術文化に触れる機会を提供することで、新たな気付きや発見を促し、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。

■同時代の表現や、個人の創作活動を通して、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供するギャラリー■

同時代に活動する作家の作品に触れ楽しむ機会を提供することにより、市民の方々に内面的な気づきや共感等の心豊かな時間を過ごしていただくと共に、開館以来60年間に渡り横浜の文化醸成の一翼を担い現代美術を牽引してきた当館の伝統を未来へ繋いでいきます。

多彩な展覧会に気軽に訪れることができる場として、地域に根差し活動を展開する団体(町内会、公共施設、画廊、創造界限拠点、神社仏閣、保育園等)と分野を越え繋がり、多彩な人々との出会いから、様々な価値観に触れるコミュニティ醸成の機会を提供します。

エ 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる：収蔵作品の調査研究に取り組むとともに、計画的かつ適切な管理・保存等を行うことにより、収蔵作品を次世代へ継承する。また、収蔵作品の活用を積極的に行い、美術に対する関心を喚起する機会を創出する。

■市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代に継承すべく力を注ぎ、その魅力を伝え、美術への関心を喚起するギャラリー■

当館の収蔵作品は、同時代および地域の美術史を顕すものであり、市民の貴重な財産です。作品が制作された当時の時代性が反映された表現は過去を知る手がかりとなり、現代においても新たな視点をもたらします。

この収蔵作品を、「コレクション展」を核とした各種事業を通じ積極的に活用し、美術への関心を喚起する機会を創造発信します。

また、収蔵作品を次世代へ継承するため、収蔵作品の状況及び修復の必要性や収蔵庫の状況改善などについて、横浜市と協働して取り組みます。

オ 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる：次世代育成を中心に、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育む。

■次世代の感性を育て、誰もが生涯にわたって芸術文化に触れる喜びを持つことができるギャラリー■

家庭や学校以外の「第3の場所」として、当館での芸術文化活動を体験することを通じ、子どもたちの自由な発想と豊かな表現を育み、その健やかな成長を応援し、子どもたちが生涯にわたって芸術文化に親しむ切っ掛けを創出します。

アートにかかわる就業を目指す学生インターンやボランティアを受け入れ、次世代の人たちに現場体験の機会を提供します。

カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う：法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。文化施設としての専門性を発揮し、市民の皆さんに親しまれる施設となる。

■安心・安全で持続可能な施設であるために、変わらない安心と変わる勇気を持ったギャラリー■
引き続き、快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした運営により、市民の芸術文化活動を支え、多くの皆さんに親しまれる施設としての持続可能性を高めていきます。

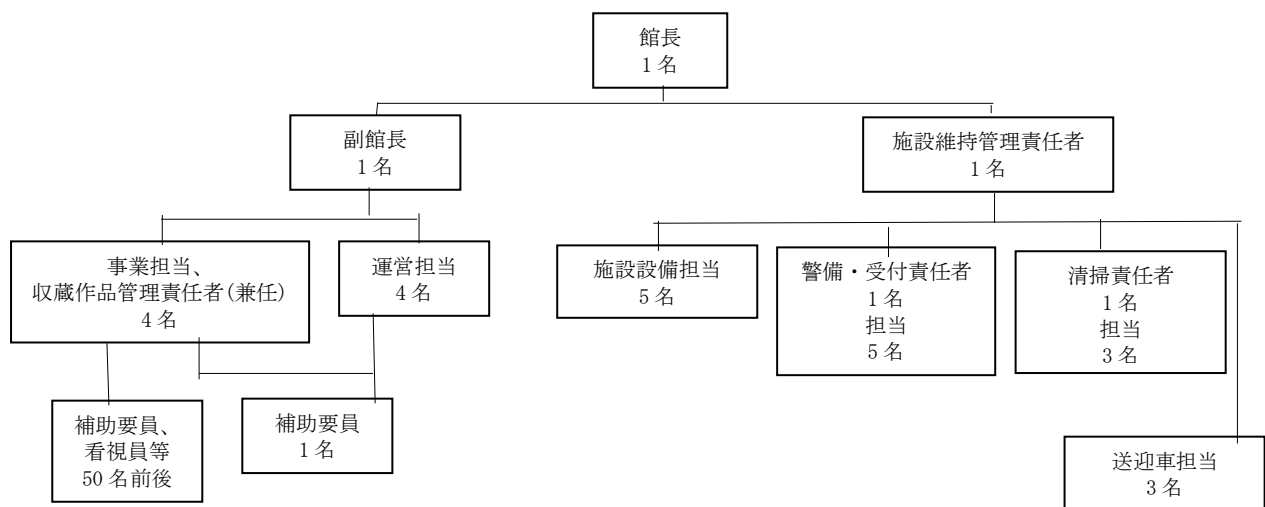
当館施設は、築37年（昭和62年・1987年竣工）を超えた建物を改修して利用しています。そのため、施設の長寿命化を図るための予防的修繕や収蔵庫の環境改善が重要です。建物管理を専門とし文化施設の施設運営に豊富な経験とノウハウを持つ事業者として、専門的な知見から常に状況を的確に把握し予防的修繕や維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画について横浜市に情報提供を行い協働して取り組みます。

キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する：新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に貸館事業及び自主事業を実施し、市民の文化活動の基盤としての施設運営を継続する。

■徹底した感染防止対策の下で、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応するギャラリー■

新型コロナウイルス感染症自体は、「第5類」となり、「ウィズコロナ」の生活様式にフェーズが移行しましたが、引き続き横浜市との綿密な情報共有と連携を図り、時流に即した衛生管理や対策を徹底し迅速に対応することで、市民の皆さんの芸術文化活動の安全を担保した基盤としての役割を維持します。

4 運営組織の構造、人員配置



統括責任者である館長の下に、事業、運営系に横浜市芸術文化振興財団の職員（一部業務委託を含みます）が、施設維持管理系に西田装美株式会社の社員（送迎車は平和交通株式会社に委託）を配置します。

共同事業体としての専門性、強みを活かした運営組織となっています。

5 令和6年度の業務の取組

(1) 文化事業

「新・今日の作家展」、「横浜市こどもの美術展」、「コレクション展」といった長年開催してきた歴史ある展覧会と、「大人のためのアトリエ講座」、「ハマキッズ・アートクラブ」などアトリエを利用した講座を基幹事業に据え、「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」（地域連携）などについての充実を図ることや、施設のエントランスを活用した「いりぐちギャラリー」と称する展開も試みることで、幅広い世代の鑑賞者や参加者の関心を喚起し、芸術文化に気軽に触れる市民の増加を目指します。

館の活動実績や収蔵作品の情報を公開し、調査研究など様々な目的で広く一般に活用していただけるよう、ホームページの事業アーカイブおよび収蔵作品検索ページの作品サムネイル画像の公開範囲を順次拡充します。

※具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載します。

(2) 施設の提供

これまでと同様に施設（展示室・アトリエ）をスムーズにご利用いただけるよう、利用者の方々とのコミュニケーションを密に行っていきます。また、若い世代を中心とした新たな施設利用者獲得に資する「U35 若手芸術家支援事業」（次世代育成）などの展開を図ります。

今年度以降は、休館される神奈川県民ホールギャラリーの利用者の一部が当館に活動拠点を移すことが予想されます。誰に対しても公平な施設貸出を継続していくためにも、厳正なる申込抽選会を始めとした施設利用のシステムを堅持します。

※具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載します。

(3) 施設運営

※具体的な取組内容や指標は完了確認表に記載します。

(4) 施設管理

築37年となる当施設建物は、至る所に不具合が出てきています。いち早く変調を察知するため、日々の点検を確実にを行います。建物の長寿命化に向けて不具合箇所の修繕について横浜市に適切に相談します。また IPM（総合的有害生物管理）手法を通じた管理をより確実なものとするべく、環境管理会議を毎月実施します。

※具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載します。

(5) 収支

利用料収入以外での収入の獲得と経費削減との両輪で、適切な収支バランス確保に努めます。

※具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載します。

(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

各種計画書・報告書につきましては、遅滞なく提出いたします。

※具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載します。

(7) その他

今年度迎える、「開館 60 周年」、現在地への「移転 10 周年」については、特別なイベントを打ち上げるのではなく、経常事業の見せ方に工夫を加えたり、貸館利用団体様などにも協力を仰ぐ形でのムーブメントを興すことにより、年を通じた祝祭感を演出し施設のプレゼンス向上に繋がります。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命 1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設利用率 (展示室及びアトリエ)	展示室	89%	95%以上	—	—	—	95%以上	—
		アトリエ	63%	44%	—	—	—	45%	—
2	総来場者数		16.6万人	25万人以上	—	—	—	25万人以上	—
3★	新規利用登録団体数(展示室、アトリエ共通)		28件	20件以上/年	—	—	—	20件以上/年	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者、来館者の状況についての現状把握	R 4 実績	「お客さま台帳」の整備を進めました
		R 5 達成指標	「お客さま台帳」の作成やアンケート調査を行い、ニーズを把握
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	把握したニーズが運営に反映されている
		R 8 実績	—

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

横浜市民ギャラリーにとっては、展覧会や各種講座への来場者様も、またこれらを主催されるご利用者様も、どちらも大切なお客様です。使命 1 はその運営の根幹となるため、日常的に「貸館事業」が安定稼働する事に資する全ての業務が重点的に取り組むべき事柄です。そのうえで、令和 6 年度は、次代を見据える「U35 若手芸術家支援事業」の推進、また「お客さま台帳」の活用を継続して取り組みます。

(2) 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	自主事業への参加人数	4,960 人	4,000 人以上	—	—	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.7	満足度 調査平 均4.0 以上	—	—	—	満足度 調査平 均4.0 以上	—
3 ★	5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」、アートなお散歩支援事業、地域連携事業などで新たに連携する団体	3団体	3団体	—	—	—	5団体	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R4実績	インタビュー手法について検討
		R5達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	参加者の声を運営に反映
		R8実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

「新・今日の作家展」では、アーティスト・インタビューおよびアーカイブの充実を図り、より多くの人の展覧会への関心を促すとともに作家の活動を広く発信します。

また、横浜市民ギャラリーがこれまでに築いてきた地域との関わりを軸に、近隣施設に出向いた出張ワークショップを行うことで、当館の活動理解と親しみを持っていただくことに繋がります。今年度は、「横浜・紅葉ヶ丘『まいらん』」事業の取り纏めを行う幹事館を担い、HPの整備などによる当事業の発信力強化を目指します。また、若葉町・黄金町エリアの文化施設と定期的に情報交換を行い相互に人の流れを促します。

(3) 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	コレクション展への来館者数	4,842 人	4,000 人以上	—	—	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.5	満足度 調査平 均4.5 以上	—	—	—	満足度 調査平 均4.5 以上	—
3 ★	本施設ホームページ収蔵作品 紹介「今月の1点」への来訪 者数	1,689 件	3,000 件	—	—	—	3,800 件	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

	項目	達成指標と各年度の実績	
1	収蔵作品 の状況把 握	R4 実績	作品の点検、確認を行い各種データに反映の実施
		R5 達成指標	作品の点検、確認を行い各種データに反映
		R5 実績	—
		R6 実績	—
		R7 実績	—
		R8 達成指標	横浜市と以降5年の作品修復計画を協議
		R8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

展覧会をはじめとした事業で収蔵作品を取り上げる機会を今年度も作ります。また、情報誌やホームページに加え、エントランスのモニター、送迎車において収蔵作品とその解説を上映する取組みを行います。毎年、夏に開催している「横浜市こどもの美術展」内でのイベントとして開催し好評を得ている、「こどものためのコレクション展」を継続し、子どもたちとその親世代と一緒に所蔵作品に親しむ機会を提供します。

(4) 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	次世代育成を目的とした事業への参加人数	4,138人	15,500人以上	—	—	—	15,500人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	満足度平均4.9	満足度平均4.5以上	—	—	—	満足度平均4.5以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—
2 ★	事業に参加した親子、職業体験参加の生徒・保護者(特別支援学校・養護学校)へのアンケート実施	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	結果分析、事業見直し、企画立案
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	事業一部リニューアルまたは新規事業開始
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

昨年度、コロナ前の形状に戻した「横浜市こどもの美術展」においては、多くの子ども達の作品が展示できるよう、「募集、受入、展示、返却」といった一連の業務について、引き続き工夫を加えていきます。中学生から高齢者まで幅広い年代の方が参加できるボランティア活動、大学生・大学院生が美術施設運営の現場体験を積むことができるインターンシップにも引き続き取り組みます。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	138%	90%	—	—	—	90%	—
4	自主的な収入を得るための取組と目標額	1,802 万円/ 年	1500 万円/ 年	—	—	—	1500 万円/ 年	—
★ 5	IPM (総合的有害生物管理)の手法による環境管理の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	実施手法等について検討
		R 5 達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

我々の持つ専門的な知見から、常に状況を的確に把握し予防的修繕や維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画について横浜市に情報提供を行い協働して取り組みます。

IPM (総合的有害生物管理) では、施設内の情報共有を密にし、所蔵作品を持つ施設として環境維持への意識を高く保つため、共同事業体による月1回の環境管理会議を継続し、情報共有・環境改善に役立てます。

